

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 6月25日現在

機関番号：32660

研究種目：基盤研究（B）海外学術調査

研究期間：2008～2011

課題番号：20401001

研究課題名（和文） 国立西洋美術館を中心としたル・コルビュジエ作品の文化遺産保存活用に関する調査研究

研究課題名（英文） Research on conservation and practical use of cultural heritage on the works of Le Corbusier focused on the National Museum of Western Art

研究代表者 山名善之（YOSHIYUKI YAMANA）

東京理科大学・工学部・准教授

研究者番号：70349843

研究成果の概要（和文）：調査研究をもとに世界遺産に推薦されたル・コルビュジエ作品に対する、各国の文化財制度の法規とその運用についての保存・管理・活用状況を包括的に時系列としてまとめ比較検討を行い『ル・コルビュジエ作品の文化財的価値の形成に関する研究』としてまとめた。イコモス国際学術専門委員会での議論も踏まえた国境を越えた20世紀文化財に対する保存・管理・活用の実効性に関する議論の基礎資料となる成果をまとめることができた。

研究成果の概要（英文）：This research has been carried out in the conservation and practical use of cultural heritage on the works of Le Corbusier in Japan, France and other 5 countries in the span of 4 years from 2008 to 2011. The aim of this research is to develop a unified system that can manage diverse information, such as the regulation and employment of the cultural-assets system of each country, comparison examination as a time series comprehensively for preservation and management / practical use situation; It collected as a paper "A study for the value of cultural heritage for the architectural works of Le Corbusier". The result used as underlying data was able to be summarized for argument around the International Scientific Committees on 20th Century Heritage of ICOMOS, for the effective possibility of the preservation and management for the 20th century cultural-assets building.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
2009年度	2,900,000	870,000	3,770,000
2010年度	2,900,000	870,000	3,770,000
2011年度	2,900,000	870,000	3,770,000
年度			
総計	12,800,000	3,840,000	16,640,000

研究分野：近代建築保存技術

科研費の分科・細目：文化財科学

キーワード：文化財科学、文化財活用調査、文化財資料調査、アーカイブ

- 研究開始当初の背景
近年、文化財としては、新しい領域である「モダン・ムーブメントに関わる建物」を、どのように文化財として保存・活用するかと

ということが議論されている。歴史的価値・意匠的価値のみを重視する従来の保存方法に対し、建物の機能を維持しつつ、現状使われている環境の中でどのように建築本体の保存を行なっていくかということは、近代建築において喫緊の課題といえる。

こうした時代的要請のもと、近年、世界各国に散らばるル・コルビュジエの作品群が、モダン・ムーブメントの建築や都市の作品例として文化遺産申請が行なわれた。このように、世界各国では「モダン・ムーブメントに関わる建物」の文化財的保護の必要性が認められているにも関わらず、日本ではこうした事例がどのように文化財的価値として認められたのか研究調査されていないこともあり、建築や都市における文化財保護を行なう上での指針が未だない。そこで、本研究は、今後日本でも増えてくるであろう「モダン・ムーブメントに関わる建物」の文化財的保存・活用の必要性を背景とした研究を試みる。

2. 研究の目的

本研究は、以下の三つの調査指針に基づき、「国立西洋美術館本館」を現在の状態のまま使用し続ける文化財のプロトタイプとして捉え、この資産を文化遺産として保存活用することを念頭に、ル・コルビュジエ設計による他事例の海外調査と設計資料収集調査を行なうことが目的である。

また、「文化財の保存に配慮」しつつ、「建築本来の機能である美術館としての展示空間」での作業をどのように行なうかという国立西洋美術館の今後の課題を含めて基本方針も策定することを前提とした調査研究を行うことを目的としている。

3. 研究の方法

研究方法として、①「文化財保存及び修復技術に関する研究」、②「資料収集とその整理及びアーカイブ化」、③「文化財活用(展示公開・教育普及)に関する調査」の三点を主軸とし、世界遺産候補としてフランス文化省とル・コルビュジエ財団が提出準備(2007年度時点)を行なってきた「ル・コルビュジエ設計による建築及び都市計画」というリスト中にある23作品を調査対象とし研究を実施した。

4. 研究成果

○平成20年度

ル・コルビュジエによる国立西洋美術館同様の「無限成長美術館」と呼ばれるプロトタイプのインドでの実現例・チャンティガール並びにアーメダバードの現地調査をおこなった。また、設計・施工過程のわかる図面等の資料収集をル・コルビュジエの協同設計者の事務所で行ない、国立西洋美術

館の設計過程の全体像並びに前段階で思考されたことを把握した。

○平成21年度

国立西洋美術館開館50周年を記念し、国立西洋美術館教行普及室長・寺島洋子とともに『ル・コルビュジエと国立西洋美術館』展を開催。さらに、展覧会の状況を確認した上で、文化財修復と活用の方法の見直しをするとともに教育装置として文化財がどのように活用されているかの研究調査を行った。

○平成22年度

国立西洋美術館の図面整理とアーカイブ化を行ない、国立西洋美術館の施工後の改修履歴に関する調査をおこなった。

また、展覧会『リートフェルトの世界』の視察、並びに、ユトレヒト博物館の教育担当者を訪ね世界遺産認定された「シュレーダー・ハウス」の教育プログラムに関する聞き取り調査を行った。

さらに、カナダ建築センター(CCA)、オンタリオ美術館(トロント)のアーカイブ部門を訪問し、建築関係アーカイブ資料の整理並びに公開方法を調査した。同時に、収蔵庫に置ける保管状況の確認も行なった。

○平成23年度

ル・コルビュジエの建築作品の中で世界遺産候補として挙げられている19作品を取り上げ、各国の文化財保護に関する法規の調査並びに保存・活用状況などの違いについて比較検討を行った。また、生活の一部として使用しながらも文化財としての価値を維持向上することが可能か実態調査を試みた。

また、ル・コルビュジエ建築作品のうち、現存しているユニテ・ダビタシオンに関する現況把握のため現地調査を行うとともに、ル・コルビュジエ財団のアーカイブにて関連資料収集を行った。

※最終年度の調査成果は、平成24年度日本建築学会において発表する予定である。

5. 主な発表論文等

□〔雑誌論文〕(計4件)

○『理大科学フォーラム』

(28(6)/P12-15, (2011))「インタビュー 鈴木博之氏(青山学院大学教授) 登録に向けての建築工学調査」鈴木博之、山名善之

○『理大科学フォーラム』

(28(6)/P8-11, (2011))「インタビュー 青柳正規氏(国立西洋美術館長) 国立西洋美術館の世界遺産登録に向けて」青柳正規、山名善之

○『理大科学フォーラム』

(28(6)/P2-7, (2011))「国立西洋美術館の世界遺産登録をめざして」山名善之

○『国文学研究資料館紀要アーカイブズ研究

編』(第8号(通巻第43号)/P83-104, (2012))
「美術館アーカイブズが守るべき記録とは何か」川口雅子

□ [学会発表] (計4件)

○加藤雅久(居住技研)、山名善之『国立西洋美術館本館の創建時部材の現存状況』(2011年8月(日本建築学会 早稲田大学にて))

○福田京(国立西洋美術館)、山名善之、熊谷亮平『国立西洋美術館所蔵建築資料のアーカイブ化に関する研究』(2011年8月(日本建築学会 早稲田大学にて))

○飯田寿一(フリーランス)、山名善之『チャンディール都市計画における居住地区の「適正規模」に関する考察—ル・コルブジュエの都市計画理論とチャンディール都市計画法の分析を通して』(2011年8月(日本建築学会 早稲田大学にて))

○寺島洋子『建築における教育プログラム—世界遺産シュレーダー邸の事例検討』(2011年8月(ボランティア研修学会 国立西洋美術館にて))

□ [図書] (計2件)

○ル・コルブジュエ著 山名善之、戸田譲共訳『マルセイユのユニテ・ダビタシオン』(2010年2月(筑摩書房))

○ル・コルブジュエ、ポール・オトレ共著 山名善之、桑田光平共訳『ムンダネウム』(2009年7月(筑摩書房))

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況 (計◇件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

○山名 善之 (Yoshiyuki Yamana)(東京理科大学・工学部・准教授)

研究者番号: 70349843

(2) 研究分担者

○村上 博哉 (Hiroya Murakami)(独立行政法人国立美術館国立西洋美術館学芸課・課長)

研究者番号: 00450643

○寺島 洋子 (Hiroya Murakami)(独立行政法人国立美術館国立西洋美術館・主任研究員・教育普及長)

研究者番号: 00270421

○川口 雅子 (Masako Kawaguchi)(独立行政法人国立美術館国立西洋美術館・主任研究員・情報資料室長)

研究者番号: 70392561

(3) 連携研究者

()

研究者番号:

